

## 生きるための大切な会費

学校法人古川学園古川学園中学校 3年 守谷 鳳甫

祖父が荼毘に付した。火葬場は洋風の建物で、大きな屋根のエントランスから吹き抜けのある明るく広いホールへと繋がる。最後のお別れをする焼却炉の前は、温かみのある電気を利用し広々とした個室になっていた。二階にある待合室までは、じゅうたん敷きの大きな階段を登り、まるでホテルのロビーのようだった。待合室に置かれていたファイルに、人が亡くなった時の手続きや火葬の費用が書かれていた。住民の祖父は無料だった。母が、税金で賄われ自治体によって違うのだと教えてくれた。

税金という言葉に良いイメージを持つ人は少ない。それは、取られてしまうお金というマイナスのイメージが大きく、今の当たり前前の生活が税金によって守られていることを体感しにくいからではないかと思う。一生懸命に働いて得たお金を、我が身の生活のためになると思いながら、税金を納めている人はどれだけいるだろう。ましてや、自分が死んでからも税金が使われるなんて、思ってもみないのではないだろうか。人は母親のお腹の中にいる時から妊婦健診という医療を必ず受ける。毎日、トイレで水を使う。信号や街頭が整備された道路を利用して、安全に目的の場所へ行く。その医療費や水の管理、道路の整備や維持、電気には税金が使用されている。もし、税金が使用されなかったら、医療費を十割支払うことも、自分で安全な水を作り出すことも、安定して使える電気を作り出すことも、とても一人ではできない。社会はみんなから集めた税金を上手く活用されて成り立っているのだと思った。税金は互いに助け合い支え合う手段の一つなのだと思った。子どもの頃に遊んだ公園も、使用している教科書も、祖父が利用した介護保険も、挙げればきりが無いほど様々なところで税金が使われている。身近な生活から、ひいては国の防衛まで、僕たちの生活とは切っても切れないものだと思った。生まれてから死ぬまで、公的なサービスを受けずに生活することは皆無であり、納税の大切さを感じた。世界には税金がない国もあるが、その国は衰退してしまった。改めて、税金は豊かな社会をつくる大切な会費のようなものだと感じた。そして、その大切な会費だからこそ、どんな所にどんな風に正しく使われているかを判断できる知識を身につけることも大切だと思った。それは、高額な税金を納得して納めることに繋がり、納税者の義務でもないだろうか。

宇宙から見た日本は、世界一に明るいという。今の僕が消費税などで自分の小遣いで納める税金は、一人あたりの税金使用料にはとても及ばないが、この豊かさを守るためにも、いつか、しっかり納税の義務を果たせる大人になりたいと思った。また、納税の大切さを正しく伝えられる納税者になりたい。